

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号	16S3055	院生氏名	堀江 久樹
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	小児がん経験者の体力向上に関する研究		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格

<審査結果の要旨>

1. 主論文について

1) 研究の概要

(1) 研究の意義・目的：成人した小児がん経験者が就労をするためには、適切な運動を取り入れた体力向上および生活習慣が重要であるが、成人した小児がん経験者への支援の介入研究の報告はほとんどみられていない。そこで本研究では、適切な運動及び保健指導(食事等)等のプログラム提供による小児がん経験者の体力向上について明らかにすることを目的とした。

(2) 研究方法：成人した小児がん経験者に対して研究開始時と1ヶ月後に体力テストを実施し、その変化を量的に比較した。具体的には、研究対象者15名に対し、無理の無い範囲で1日10分程度のベースプログラム(ストレッチ、筋肉トレーニング、有酸素運動、その他の運動)を継続してもらい、介入効果について体力テストの初回と2回目を対応のあるt検定により分析した。また、上記の研究対象者の語りを通して、背景や行動変容、今後の発展に向けた期待について質的に明らかにした。運動については個別性を重視し、漸増負荷法を採用した。なお、研究に興味関心はあるものの実際に協力可能な成人した小児がん経験者は少ないため、本研究では運動プログラムに参加しない対照群の設定はない。しかし、本研究で使用した文部科学省新体力テストでは、個々の体力年齢の他に、体力測定の結果を得点化した年代ごとの5段階(A~E)の評価もあるため、その評価を使用して一般の方と比較した研究対象者の変化を追うことが可能である。運動や保健指導は医療関係者、栄養学、体育学、レクリエーションの専門家などが協働して行った。運動記録は毎日Webによる報告をしてもらった。統計解析はSPSS Ver. 23.0を用い、有意水準は5%とした。対象者の語りは看護学の研究者にスーパーバイズを受けて内容分析を行った。分析評価は2人の専門家に依頼しCohenによるκ係数により測定し、92%の一致度だった。

(4) 結果・結論：成人した小児がん経験者は、適切な管理体制のもと専門家と協働して運動及び保健指導(食事等)に取り組んだことにより、下記の成果が得られた。

- ・研究開始時と1か月後の計2回の文部科学省新体力テストにおいて、統計学上有意に運動機能が向上したことが明らかになった。
- ・研究対象者の語りから、自身の変化を肯定的に捉えていることが明らかになった。
- ・今後の運動プログラムの発展や活動体制の充実への期待があり、更なる支援が必要であることが明らかになった。

本研究は国際医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施されており、研究方法においても倫理的配慮がなされていた。研究方法、論証、論文形式において、適切であった。

3) 知見の新規性と価値

本研究の新規性は、①日本国内で成人した小児がん経験者に対して、積極的に運動及び保健指導を実施しその結果、研究開始時と1か月後の運動機能が向上したことを明らかにした。

②体力向上に関する効果について、新体力テスト(文部科学省)を用いて縦断的に評価したことである。小児がん経験者の就労の促進・支援にも貢献しうる研究として高く評価できる。

2. 審査経過について

初回審査では、質的研究の語りやサンプリングバイアスの記載が不十分との指摘、予定プログラムを終了していない研究対象者への今後の対応についての質問があり、論文の加筆、修正を求めたところ適切に修正された。

3. 口頭試問において適切に応答した。

4. 以上の結果から、審査会の審査員全員、本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分

な価値があるものと認めた。

論文審査担当者

主 査

斎藤 照代

副 査

丸山 仁司

副 査

下泉 秀夫